

「教職大学院と連動した初任者研修履修証明プログラム」

調査の概要

◆課題認識

- ・学び続けるモチベーションを維持し、習得した能力や専門性の成果が評価され、実感できる取組みになっていない。
- ・理論と実践の往還による融合を意識した研修になっていない。

◆連携校(初任者の配置校)

- ・和歌山市立藤戸台小学校
四箇郷北小学校
貴志小学校
- ・和歌山市立河北中学校
貴志中学校

◆調査研究の目的

- ・学びの成果の可視化のための開発
- ・理論と実践の融合を実際的に図る「連動授業」の開発
- ・初任者等への指導内容・方法の改善及び開発、そのプログラム化
- ・プログラム拡大のための運営体制の開発及び財政基盤のシステムの構築

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

- ・初任者研修を2年間で専修免許状取得につながる
- ・2年目の受講生は専修免許状取得に必要な単位数取得

②ポイントB

- ・理論と実践の融合を実際的に図る訪問指導と大学での授業の受講
- ・初任者等への指導内容・方法の改善及び開発、そのプログラム化(「初任者支援ための人材養成プログラム(仮)」)

③ポイントC

- ・授業評価シートやiPadを利用したカンファレンス

◆成果

- ・学びの成果の可視化のためのシステムの開発
「履修証明プログラム」の修了者数 1年次9名、2年次10名
専修免許状必要単位取得者 10名
- ・「初任者支援ための人材養成プログラム(仮)」のパイロット版ワークショップ実施40名の参加

今後の課題

- ◆専修免許取得のための科目履修に係る期間の弾力的運用など本学が開発してきた初任者研修履修証明プログラムを「育成指標」に応じたものに改善し、広く県・市の初任者研修に導入可能なプログラムとすること